

## Ⅱ 令和7年度学校関係者評価委員会からの提言と学校の改善計画

### ◆1【学校生活・家庭での対話について】

|    |   |
|----|---|
| 提言 | 学校生活に対する満足度は高い一方で、「将来の夢」や「SNS・インターネットの使い方」など、家庭での対話に関する項目は低い水準にとどまっている。また、「相談する」「振り返る」といった自己省察や対話に関わる力にも課題が見られる。子どもが自らの考えを表現し、他者と関わりながら学ぶ機会を意図的に設定するとともに、家庭と連携して対話を促す取組が求められる。  |
| 取組 | ○「せたがや探究的な学び」や各教科の学習において、自分の考えを伝え合う活動や振り返りの時間を意図的に設定し、対話的な学びの充実を図る。<br>○キャリア教育の視点を日常の授業や行事の中に位置付け、自分の将来や生き方について考える機会を設けるとともに、その内容を学校だより等で発信し家庭との共有を図る。<br>○「インターネット週間」などの取組を設定し、SNSや情報機器の使い方について親子で話し合う機会を計画的に設ける。<br>○一方で、家庭での対話の深まりには個人差も見られるため、継続した働きかけが必要である。 |

### ◆2【ICT時代における学びと向き合い方について】

|    |   |
|----|---|
| 提言 | ICTの活用については授業面で高い評価が得られているが、家庭との共有や活用の意義の理解は十分とは言えない。ICTを単なる道具としてではなく、情報を主体的に活用する力の育成につなげるとともに、その価値や課題について学校と家庭で共通理解を図ることが重要である。  |
| 取組 | ○セーフティ教室や情報モラル教育を継続して実施し、児童が安全かつ適切にICTを活用できるよう指導を充実させる。<br>○ICTを活用した学習の具体的な成果や実践例を学校だよりやホームページ等で紹介し、保護者への理解促進を図る。<br>○保護者会や講習会等において、ICT活用の利点と課題の両面について共有し、家庭での話題につながるよう働きかける。<br>○しかし、家庭での理解や関わり方には差が見られるため、引き続き多様な方法での周知と連携が求められる。 |

### ◆3【学校の方向性の共有と情報発信について】

|    |  |
|----|--|
| 提言 | 情報提供そのものへの評価は高いものの、学び舎の取組や学校の重点目標、防災対応などの具体的な内容については理解が十分とは言えない。学校の理念や教育活動のねらいを分かりやすく結び付けて発信し、継続的に共有していくことが求められる。  |
| 取組 | ○学校だよりやホームページ、メール配信等を活用し、教育活動と重点目標との関連を意識した情報発信を行う。<br>○学び舎の連携や防災教育については、具体的な取組事例や活動の様子を取り上げ、分かりやすく伝える工夫を行う。<br>○教職員の研修や取組についても積極的に発信し、学校全体としての教育の方向性が伝わるよう努める。<br>○一方で、情報の受け取り方には差があり、「分からない」とする層も一定数見られるため、発信方法や内容のさらなる工夫が必要である。 |

全体として、教育活動の基盤は安定しているが、対話の充実、ICT活用の質の向上、学校の方向性の共有といった点において課題が見られる。今後も、学校・保護者・地域が連携しながら、継続的な改善を図っていくことが重要である。